

第2回東久留米市第5次長期総合計画後期基本計画推進委員会 会議要録

【日時】令和7年7月31日(木)17時57分～19時45分

【場所】704会議室

【出席者(敬称略)】

委員：奥真美、渋井信和、伊藤成美、斎藤利之、松本誠一、大谷詩織

事務局：企画経営室長(長澤)、企画調整課長(佐藤)、同主査(永井)、同担当(北爪・櫻井・横田)

◆次第

1. 開会

2. 議題

(1)東久留米市第5次長期総合計画後期基本計画策定に向けた市民意見聴取結果について

(2)東久留米市第5次長期総合計画後期基本計画の内容検討について

3. その他

4. 閉会

◆資料

【資料1】市民意見聴取に係る結果分析資料

【資料2】東久留米市第5次長期総合計画後期基本計画本文(素案案)

◆議事録(要点)

1. 開会

◇事務局より説明・確認

【奥会長】

本日はご多用のところ、本委員会にご出席いただき感謝申し上げます。委員全員が出席しており、定足数を満たしていることから会議は成立している。事務局より案内をお願いする。

【企画調整課長】

「会議公開に関する指針」に基づき、会議は原則公開とする。会議録は要点筆記とし、委員にご確認いただいた上で、会議資料とともにホームページにて公表させていただく。

【奥会長】

前回と同様、会議録に発言者名を明記することについて、異論はないか。

【全委員】

異議なし。

【奥会長】

承知した。本委員会では、発言者名を明記して会議録を作成することとする。傍聴の方はいら

っしゃるか。

[企画調整課長]

3名いらっしゃるためご入室いただく。傍聴の方には、「会議公開に関する指針」記載事項の遵守等をお願いする。

2. 議題

(1)東久留米市第5次長期総合計画後期基本計画策定に向けた市民意見聴取結果について

◇事務局より、配布した【資料1】に沿って説明。

[奥会長]

ご意見、質問等があればお願いする。

[大谷委員]

新たな意見聴取の手法として、今後どのように活用されていくのか大変興味深い。他市でも同じ事例があったのか、導入の経緯を伺いたい。

[企画調整課長]

これまで市民から意見をいただく手法としては、主にパブリックコメントを実施してきた。テーマへの関心によって意見の件数にばらつきがあるものの、大体数件から10数件程度という状況が続いている。また、毎年度無作為抽出による市民アンケート調査を実施してきたが、こちらは回収率が30%台と、なかなか高いとは言えない状況であった。そうした中、どうすればより多くの方に興味・関心を持っていただけるか、時間や場所を選ばずに参加できるような仕組みなどを検討しながら、実験的に進めていきたいという思いがあった。そこで、東京都産業労働局が実施する「UPGRADE with TOKYO」という、行政が抱える課題をスタートアップのノウハウを活用して解決する取組を活用することとなった。この取組は、東京都・自治体・スタートアップの三者間で協定を締結し、連携して進めていくもので、費用は東京都が負担する。市が参加したピッチイベント(行政が提示した課題に対して複数のスタートアップが解決策をプレゼンテーションするもの)で優勝したスタートアップが、今回のプラットフォームの提供元となっている。このプラットフォームについては、他の自治体でも導入されていることを以前から把握しており、結果的に本市でも活用することになったという経緯である。

[大谷委員]

子育て世代の参加が多かったということで、子育て世代向けの情報誌を作っているボランティア団体の中でも非常に話題になっていた。

[斎藤委員]

少し専門的な話になるが、まず、【資料1】は本会議のために作成されたのか、あるいは今後公表することを想定して整理されたものか。

[企画調整課長]

今回は速報版という位置づけだが、最終的には報告書としてまとめて公表していく。

[斎藤委員]

その前提でお話しさせていただく。AI の活用について、ご説明いただいたワードクラウドのような手法は、いわゆるテキストマイニングの一つで、回答データを可視化できる点は評価できる。しかし、ワードクラウドから得られる解釈というのは受け手側に委ねられる部分が多い。

たとえば、「基本目標2 安心して快適にすごせるまち」に関連するワードが表示されたとして、そこに東久留米市や道路、笠松坂などの単語が出てきた場合、それが何を意味するのか、何が課題とされているのかという点については、受け手側が読み解いていく必要がある。ワードクラウドを使用する場合には、これがどのようなものなのかを明記していただきたい。また、ワードクラウドだけでなく、「共起ネットワーク」という単語同士の相関関係を可視化する方法も取り入れると効果的である。加えて、「共分散構造分析」と呼ばれる、いわゆる「物が売れる要因は何か」といった問いに対して、年代・場所・時期などの因果関係を構築していくような分析技法についても検討していただきたい。本来行政側が認識すべきなのは、そのような分析によって導かれる深い分析結果や因果関係といった部分かもしれないが、一般の方に広く紹介していくという面では、ワードクラウドのような表現が一番わかりやすいのではないかと思う。今回はワードクラウドの特性や限界も踏まえた上で活用するという理解でよろしいか。

[企画調整課長]

お見込みのとおり。このプラットフォームは1年間の試行実験として利用している中、本市としては、例えばワードクラウド上で同類の語句を同系色で表示できるか、ロジックツリー形式で語句の関係性を表現できないか、そういった可能性も模索している。今後はこのプラットフォームを応用し、本市の職員の力でよりわかりやすく市民に伝えられる仕組みを構築していきたいと考えている。特に、これまでとは違ったアプローチとして、データをなるべく可視化することでより多くの市民に参加していただくことを目指す。

[斎藤委員]

今回はかなりの記述があるので、これを分析要素として活用しなければもったいない。これだけ多くのご意見を寄せていただいたということ自体、非常に意義があること。これほど市に対して愛着や関心を持ってくださっている方が多くいる証だと受け止めている。特に、30代・40代といった、これから市を支えていく層からの参加が多かったというのは、非常に明るい材料だと感じる。一方で気をつけなければならないのは、このような手法をとることによって、高齢者層からの意見が吸い上げられなかったという側面もある。そのあたりのバランスを、意見募集の目的とあわせて整理していただきたい。

[企画調整課長]

年代別の傾向についてはこれまでも意識をしてきたところである。前回の推進委員会では、子育て世代の意見を多く得られるような仕組みを考えてほしいとのご意見をいただいていた。期待していた結果が出た一方、60代以上の意見が少なかったことについては今後の課題として認識している。幅広い世代の方にとって、よりわかりやすく、参加しやすい仕組みを検討していく。

[渋井副委員長]

年代別にみると、30代から65歳までが全体の約90%を占める。また、意見投稿者は113名で、市全体の人口に対して約0.1%である。このような結果から、いただいた意見をどのように扱うかは非常に重要な視点となる。あくまで一部の方の意見であり、市民全体の総意ではない。例えば、第5次長期総合計画基本構想を策定する際に実施したアンケートでは、市民要望の第1位が災害対策であった。しかし、今回いただいた意見の中には災害対策に関する内容はひとつも見受けられない。今回の調査結果を最終的にはどのように処理して計画策定に活かし

ていくのか。また、市民アンケート調査は今後実施しない方針なのか。今回紙ベースでの回答が0件とのことだが、デジタル手法では、市に対して自分からアクションを起こす積極性のある市民しか参加せず、無関心層の意見が反映されないという課題があるのではないかと。市がアンケート用紙を配布し、それに回答を記入して返送してもらうといったアプローチも重要である。

[企画調整課長]

いただいた意見はテーマごとに市民がどういった視点で関心を持っているのかが分かる内容となっており、その中には支持的な意見もあれば、課題に感じる部分のご指摘もあった。分析の結果、特に論点として浮かび上がってきた部分や、類似した意見が多く見られる部分など、突出した課題は見受けられず、総花的なものであったと整理している。ただし、今回いただいた意見を念頭に置きつつ、今後5年間、後期基本計画の施策を推進していくという意味で、ワードクラウドという形で各基本目標の表紙に掲載することを想定している。

[奥会長]

市民アンケート調査についてはどうか。

[企画経営室長]

市民アンケート調査は毎年度実施している。7年度からはインターネットを介して回答する手法に変更した。市民の中から無作為に3000人抽出し、回答数は814件、回収率は27.1%と、紙ベースで実施していたときと同じような結果となった。ただし、傾向として変わった点が2つある。1点目は若い年代の回答率が上がったこと。全体的にみると人口構成比率と同じくらいの回答率であり、幅広い世代の方に回答していただいたことが分かる。2点目は、個別意見が増加したこと。814件の回答のうち、370名から個別意見が寄せられ、合計609件にもなった。紙ベースで実施していたときは、文章で書くことへのハードルが高い印象があったが、デジタルを活用することで個別意見の件数が非常に増えた。また、市民がどんなことに興味を持っているのかを視覚的に示すワードクラウドは非常に魅力的なツールだと考えている。しかし、個別意見については、今後各所管がしっかりと内容を把握し、なぜそのような意見が出ているのかを読み取りながら、市政に生かしていく必要があると感じている。特に件数の多いテーマについてはコアな市民ニーズと捉えることができる一方で、個人の状況に根ざした意見も多く寄せられており、それらについては、今後どう対応していくかを各所管で検討していくことが求められる。災害対策に関して、防災・防犯は市民の関心が一番高いテーマであると認識している。ただ、その時々々の社会情勢に大きく左右される面もあり、災害が起きた直後には防災意識が高まり、要望も一気に増える傾向があるが、時間が経つと関心が薄れることもある。現在は防犯に関する意見が非常に多く寄せられており、市民の強い関心が表れていると認識している。いただいた意見は行政としてしっかりと受け止め、今後の市政運営にどう反映させていくかという観点で、具体的な検討材料として活用させていただく。

[渋井副委員長]

市民アンケート調査はこれからも継続していくということか。

[企画経営室長]

毎年継続して実施していく。なお、7年度は近年の取り組みと同様、デジタルだけでなく紙媒体も用意し、10数件ほど回答をいただいている。

[奥会長]

市民アンケート調査の結果は提供していただけるのか。

[企画経営室長]

今回の取り組みとは別に、事務報告書の中でとりまとめを行っており、今後ホームページでの公表を予定している。

[奥会長]

市民アンケート調査の結果は後期基本計画の策定には反映しないということか。

[企画経営室長]

市民アンケート調査の目的は、毎年同様の調査を行うことで時間経過による変化や傾向を把握すること、また、各施策・事業を評価する際の一つの指標として活用することである。次回までに市民アンケート調査の結果についてご紹介できるよう準備する。

[渋井委員]

ホームページで市民アンケート調査を確認したが、市政に対する評価的な内容が多く、市政に対して何を望むかという点あまり見受けられなかった。第5次長期総合計画基本構想・基本計画の策定時に実施したアンケートは市政に対して何を望むかという設問が中心だったが、市民アンケート調査はこれとは趣旨が異なるものなのか。

[企画経営室長]

おっしゃるとおり、第5次長期総合計画の策定に向けアンケートを実施し、市民が市政に何を期待し、どのような意識を持っているかを調査して、基礎調査報告書としてとりまとめた。後期基本計画の策定においては、当該アンケートに代わるものが今回活用したプラットフォームである。また、毎年実施している市民アンケート調査は、かつて本市で実施していた事務事業評価において、施策の成果指標の把握や事業の効果を検証する役割を担っていた。施策の立案段階で市民ニーズを把握する必要がある場合には設問の方向性を見直すことも考えられるが、基本的には振り返りに活用する趣旨で実施している。今回後期基本計画をご検討いただくにあたって、市民がどのようなことを期待しているのかということを知っていただくため、ワードクラウドによって市民の期待に関する単語を視覚的に提示し、あわせて個別意見を収集するという構成にしている。

[松本委員]

これまでのアンケートの回答者は男性が多い印象だったが、若い世代の女性、特に子育て世代から多くの意見をいただけたことは非常に評価できる。ワードクラウドも視覚的に表現されていてわかりやすい。文字の色の違いに意味を持たせられるとより効果的だと感じた。デジタルの活用によって文章を書くことのハードルが下がり、多くの意見を投稿していただいたものと推察される。個人意見はのちほど拝見させていただく。

[伊藤委員]

デジタルで手軽だからこそ、子育て世代から多くの意見をいただくことができたと思う。自由な発想の意見がたくさんあり、エネルギーを感じた。誰でも気軽に発言しやすい仕組みで、有意義なものであったと評価できる。

[奥会長]

今回の調査結果が計画に反映できるほど成熟したものかという点とまだ課題もあるかもしれないが、こうした手法そのものを含めて、ぜひアピールしていただきたい。最近では、多くの自治

体でもワードクラウドによる見せ方が主流になりつつある。ただ、今回のワードクラウドは名詞が中心で、形容詞や動詞といった語句があまり入っていない。そのため、見た目の色や配置に意味はなく、単語の出現頻度のみによって大きさが異なる点をご理解いただく必要がある。

[斎藤委員]

良かった点としては、デジタル手法によって結果として意見が吸い上げられたこと。ただ、総人口の0.1%という結果では十分とは言えない。事務局として、これをどう生かしていくのか、デジタルと紙の併用にするのかなども含め、検討していただきたい。私自身も今回の取組については知らなかったなので、まずは周知を徹底し、0.1%が1%、さらには10%にまで広がれば、意見としての重みも増してくる。デジタルを活用する意義というのは意見を出せる場を提供することだけではなく、それと同時にデータ加工の処理速度の向上や、加工方法を選択できるという点にある。今回の取組は試行実験とのことだが、財源の確保と並行して、今後も継続して実施していただきたい。

[奥会長]

今までかけていたコストが大幅に軽減されるのではないか。

[企画調整課長]

これまで紙やFAXで届いた意見を職員が手作業で整理していた。今回のアンケートは6月30日に締め切ったが、従来のやり方では本日こうして報告するのは難しかったと思う。デジタルの活用により人的コストが大きく削減されたと認識している。

[斎藤委員]

少し話が逸れるが、文字起こしにAIを活用することも非常に重要である。かつてはICレコーダーで録音して、職員が1日2日かけて打ち込んでいたと思うが、今はAIで自動的に変換され、多少の修正を加えるだけで済む。可能な限りデジタルシフトを進めていただきたい。

[企画調整課長]

本日の会議録の作成にもAIを活用する。

[奥会長]

AIによる要約はまだ技術的に発展途上である。

(2)東久留米市第5次長期総合計画後期基本計画の内容検討について

◇事務局より、配布した【資料2】に沿って説明。

[奥会長]

施策体系はそのまま維持したうえで、社会状況の変化などを踏まえて文章を付け加えたり、見直したりした点を中心という理解でよろしいか。

[企画調整課長]

お見込みのとおり。第5次長期総合計画基本構想において各施策の基本的な方向性が定まっているため、その体系については前回と同様のものとし、その上で前期基本計画を振り返りながら、今後5年間を見据えた課題等を踏まえ内容を見直している。

[奥会長]

見せ方で前回と異なる点として、SDGsの17のゴールとの関連が明記されたというのが大きな特徴だと思う。

[企画調整課長]

従来計画の後段に掲載していたものを、基本的な施策ごとに関連するゴールを記載した。これにより SDGs とのつながりを明確化し、意識を高めていく。

[奥会長]

資料の作り方として、現行の計画とどこが違うのか、書き換えた部分や付け加えた箇所がどこなのかがもう少しわかりやすく整理されていたほうがよかった。ほとんど現行の計画と変わっていない文章もあれば、「2-2 確かな学力の育成」など、かなり書きぶりが充実している箇所もある。そのあたりが明示されていればより理解しやすかったのではないかな。

[企画調整課長]

今回の変更内容は多岐にわたっているため、事務局で示し方を検討させていただき、次回の推進委員会が開催される前に委員の皆様へ提供させていただく。

[斎藤委員]

SDGs については、施策全体ですべてのゴールが盛り込まれていたの安心した。1点確認したいことがある。【資料2】では17ページと33ページ、現行の計画では30ページと46ページに該当する部分について、ほかの基本的な事業と異なり、関連する個別計画の記載がない。例えば、現行の計画の20ページを見ると、具体的な計画ではないが、「協働の指針」や「市民参加・情報提供の指針」といったものが記載されている。一方、30ページを見てみると、表紙の写真にも使われているような重要な内容が書かれているにもかかわらず、関連する個別計画が挙げられていない。これには少し違和感がある。該当する個別計画が存在しないということであればやむを得ないと思うが、何らかの基本的な関連計画が存在しているのであれば記載すべきと感じた。

[奥会長]

関連づけられるものがないか改めて検討していただきたい。

[企画経営室長]

改めて確認させていただく。行政計画や行政方針など国の法律で義務づけられているものや、協働の指針のように、協働とは何かという観点からまとめられたガイドライン的なものが存在している。私自身はコミュニティに関するガイドラインを見たことがない。写真に関しては、市民みんなのまつり開催時に駅前市民の皆様と東久留米音頭を踊ったときのものである。

[斎藤委員]

これだけしっかりと事業計画が示されているにも関わらず、関連する個別計画が記載されていないという点に違和感がある。市で策定したものに限らず、国や東京都の方針等も含め検討してはどうか。先ほど、若者の詐欺被害の対策が重要という説明があったが、そこに関連する計画や根拠となる方針が示されていないのは気になる。

[奥会長]

現状と課題の中で触れられていること、例えば、指定管理者制度やコミュニティ施設に関しては、計画という形ではなくても、要綱や指針など根拠となるものが存在しているはず。事務局で確認していただきたい。

[企画経営室長]

関連するものを洗い出してお示しする。

[企画調整課長]

担当部署にもフィードバックし、該当するものがあるか確認する。

[斎藤委員]

関連する個別計画の計画期間が記載されていないことには何か意図があるのか。

[企画調整課長]

前期基本計画では明記していたが、前期基本計画の計画期間中に新たな個別計画に移行していくケースが多く見られた。それを踏まえ、「第〇期計画」や「計画期間」といった形ではなく、どのような個別計画や指針が関連しているかという視点から整理を行い、ホームページ等で最新の計画をご覧くださいよう構成する方が適切ではないかと考えた。東京都内や近隣自治体の総合計画も確認したところ、計画期間を記載していない例が多く見受けられた。

[奥会長]

図表等についてはどのように想定しているのか。

[企画調整課長]

現段階では、まずは本文のたたき台を作成したところであり、そのブラッシュアップと並行して、庁内各課に対し関連する図表等の提供を依頼している。次回の推進委員会では図表等も掲載した形でお示しする予定。

[奥会長]

これからアップデートされるということでは理解した。

[渋井副会長]

現在実施されている「東くるめプレミアムデジタルチケット」は非常に良い取組だと感じる。対象を18歳から39歳に絞っている点も評価できる。後期基本計画での位置づけとしては、「1-1 商工業の活性化及び新たな産業などの創出」に整理されるのか。

[企画調整課長]

お見込みのとおり。この取組は、物価高騰に対する若者支援だけでなく、若い方に市内で消費をしていただくことで、地域経済の活性化を図り、結果として事業者支援にも資するものである。

[渋井副会長]

「1-2 生活の安定と自立に向けた支援」として整理することも考えられる。福祉制度を利用する前段階での支援について、具体的な施策を検討する必要があるのではないか。例えば、プレミアムデジタルチケットの対象を若年層に限らず、いわゆるロスジェネレーションと呼ばれるバブル崩壊後に就職期を迎えた方々を含めることで、商工業の活性化とは別に生活支援として視点を取り入れてはどうか。これは福祉施策とは別に検討していただきたい。次に防犯について、犯罪抑止のための防犯灯の新設とあるが、防犯カメラについてはどうなのか。事件が起きたとき、防犯カメラが決め手になる場面も多い。プライバシーの問題を理由に反対する方もいるのは承知しているが、現在犯罪が増えている状況を鑑み、公道上に防犯カメラを設置すべきと考える。

[企画経営室長]

ご指摘いただいた2点のうち、まず若者、就職氷河期世代を含めた方々への施策について。これまで18歳から40歳までの世代については、市の福祉施策の対象として明確に位置づけら

れてこなかった。過去に実施してきた新型コロナウイルス感染症対策や物価高騰に伴う給付金事業においても、その世代に対して直接的な関わりを持つ機会がほとんどなく、支援の手が届いていなかった。そうした中、今回のデジタルプレミアムチケットでは、コード決済事業者が保有する年齢等のデータを活用することで、これまで支援が届きにくかった世代へのアプローチを試みた。今後、どの世代に対してどのような支援を行っていくのか、引き続き検討していく必要があると感じているため、一つの課題提起として受け止めさせていただく。次に、防犯カメラの設置について。現在、東京都では一定の要件のもと、防犯カメラ設置に対する補助制度を実施している。通学路や公園、道路などについて、関係する地域協議会での検討を経て設置が必要と認められた場合には、その設置費用に対する補助が出る仕組みとなっている。市としてもこの制度を活用し、通学路だけでなく、放課後に多くの子どもが遊ぶ公園への設置も検討している。こうした動きに対応し、後期基本計画に防犯カメラの設置に関する記載ができるよう、担当部署と調整を進める。

[奥会長]

防犯カメラの設置については【資料2】の77ページにすでに記載がある。

[事務局]

通学路の防犯カメラは官民連携事業の一環として、市内に設置された自動販売機の収益を活用して設置している。公園、道路への防犯カメラ設置についても、担当部署と調整しながら計画に取り入れていく。

[渋井副会長]

水と緑が本市の最大の魅力であるという視点から意見を申し上げる。市内には2本の川が流れているが活用がなされていない。現行の計画には「市民が水辺環境に親しめるよう適正な維持管理を行う」との記載がある。川の役割のうち、特に親水がトレンドとなっている中、落合川や黒目川周辺で市民が水辺環境に直接触れ合える場所は3ヶ所しかない。これを拡大し、市民が親しめる場所を増やすべきだと以前から提案してきた。東京都は現在予算に余裕があり、市からの申し出に対して積極的に対応してくれる状況であるため、積極的に検討していただきたい。また、市民が水辺環境に親しめるような施設や公園の整備について、後期基本計画に取り入れていただきたい。

[奥会長]

【資料2】では79ページに該当する。維持管理というよりも積極的な整備という意味では、この部分には含まれていないように見受けられる。

[企画経営室長]

ご指摘いただいた点について、今後どのようなことができるか検討していきたい。黒目川の上流域はボックスカルバートの設置とあわせて親水公園を整備した経緯があるため、同じような整備が可能なのか、東京都と相談しながら進める必要があると考えている。

[企画調整課長]

書きぶりとしては、市民が水辺に親しめるような環境を充実させるとともに、河川の適正な維持管理に努めるといった内容に書き換える。いただいたご意見は担当部署にフィードバックさせていただく。

[奥会長]

参考までに、国分寺市では野川の整備について東京都に長年要望を出しているが、全く進展がないと聞いている。後期基本計画の中でこういった表現ができるか検討をお願いする。

[松本委員]

民生・児童委員の定員が 80 名となっているが、現在 60 名を切っている状況。現行の委員の任期開始時点(令和4年12月1日)で、都内での充足率が最も低く、深刻な課題となっている。民生委員協力員制度など負担軽減に向けた取組が進められているが、より具体的な施策を検討していただきたい。

[企画経営室長]

民生委員協力員制度の開始とあわせて書きぶりを検討する。

[伊藤委員]

基本目標ごとに色分けされていてわかりやすい。

[企画調整課長]

後期基本計画は印刷・製本含め職員の手作業で作成している。市民の皆様にとって分かりやすい構成となるよう検討する。

[斎藤委員]

前提として、素案に対して意見を述べるのか、この段階で新たなアイデアを提案してよいのかを整理したい。

[奥会長]

内容についてのご意見はもちろん、不足していると感じる部分や、新たな視点として取り入れるべき事項があれば提案していただきたい。

[斎藤委員]

「1-2 防犯対策の充実」で保護司の活動について触れられていない点が気になる。私自身も保護司を務めており、地域の皆さんと協力しながら再犯防止に努めるなど、多様な活動が行われているが、この活動が認識されていないのは残念に感じる。また、現在保護司の担い手不足が課題となっているため、保護司の活動を知っていただくためにも、ぜひ計画に記載していただきたい。

[企画経営室長]

保護司の活動について、地域保護の計画を地域福祉計画と包括的に作成しているため、地域福祉の部分に入れることについて、担当部署と相談する。

[斎藤委員]

全国的に今注目されている教育の取り組みとして、「ラーケーション」というものがある。これは子どもたちが休暇を取りながら学ぶ新しい形態です。例えば、3日から5日間学校を休んで、親と一緒に過ごして学習に専念するというもの。愛知県や茨城県、沖縄県ではすでに始まっているが、東京都ではまだ実施されていない。世田谷区が導入に向けて積極的に動いている状況。子どもが豊かに成長できるまちを目指す市の計画の中で、ぜひ今後の検討項目に加えていただけるとありがたい。

[企画調整課長]

本日に限らず、いただいたご意見はしっかり受け止め、各部署と共有する。

[企画経営室長]

ご指摘いただいた書きぶりの部分と今後の検討課題もあわせてフィードバックする。

[大谷委員]

策定後はどこで計画を見ることができるのか。オンラインでも見られるのか。また、どんな方に提供することを想定しているのか。

[企画調整課長]

デジタル化の推進にあたって、従来どおりホームページへの掲載を予定している。また、図書館や市政情報コーナーなど、必要最低限の紙媒体を設置する。ただ、スマートフォンなどから直接アクセスできることが一番望ましいと考えている。

[大谷委員]

関連する個別計画を閲覧する場合には、一つひとつホームページで検索する必要がある。各個別計画にすぐアクセスできるよう、例えばホームページの二次元コードを掲載して、該当ページへ誘導する方法も考えられる。個別計画を改訂した際には、前回と同じページに掲載すれば最新の計画を見ることができる。

[企画調整課長]

これから原案を作成する中で、個別計画にスムーズにアクセスできる仕組みを検討する。

[奥会長]

本日は全ての内容を確認する時間が十分に取れなかったため、追加のご意見やご提案があれば事務局のメール宛に送付していただきたい。今後いただくご意見も踏まえ、事務局で整理して素案の作成に活かしてほしい。

4. その他

[奥会長]

事務局から連絡事項があればお願いします。

[事務局]

次回の推進委員会は10月中下旬を予定している。オンラインで参加していただくことも可能なので、そのご要望についても後日お伺いする。引き続きよろしくご意見申し上げます。

以上